

関学日本語教育研究会の趣旨

長谷川 哲子（関西学院大学経済学部）

関学日本語教育研究会は、2007年に本学言語コミュニケーション文化研究科に日本語教育学プログラムが新設されたことを機に、于康教授（現国際学部教授。当時は経済学部教授）の呼びかけにより、発足した研究会である。本研究会は、本学の日本語教育および日本語教育研究に携わる全ての教員、大学院生にひらかれている。例年、年2回の開催としているが、2015年度は3回（2015年7月、2015年10月、2016年3月（予定））となっている。

以下に、第15～17回研究会について概要を述べる。

第15回研究会（2015年3月開催）では、前年度に引き続き、学内の日本語科目担当教員による実践報告会を開催した。教員間における情報共有および情報交換の場として、各自の授業実践活動の報告を行った。

第16回研究会（2015年7月開催）では、本学日本語教育センターの牛窪隆太常勤講師より「日本語教師性とは何かー日本語教師研究の意義と課題ー」とのタイトルで研究報告があった。続いて、本学日本語教育センターの高村めぐみ常勤講師から「日本語母語話者が聞きやすいと評価する音声」と題した研究報告があった。

第17回研究会（2015年10月開催）では、シドニー工科大学の尾辻恵美氏を講師としてお招きし、「「多」言語社会における言語教育とは何か」とのタイトルでご講演いただいた。本学大阪梅田キャンパスでの開催であったが、学内外から多数の参加者があり、好評を得た。

本学では、2014年度に「スーパーグローバル大学創成支援」事業に採択されたことに伴い留学生、特に交換学生数が著しく増加している。日本語教育センターに課せられた責務、また期待される役割に応えるべく、本学の日本語教育の充実を図ることを目的として、来年度も継続して研究会を開催できる体制を整えていきたい。